

校長先生の初恋物語

第45話 じごくのような毎日

一番最後は、くじをつかった学級委員が引きます。まじめ子さんが女子の最後、足長君が、男子の最後です。教室を見回しました。男子でとなりが決まっていらないのは、ちん君です。つまり、前にいるまじめ子さんが、ちん君のとなりということなのです。そして、女子でとなりがまだあいているのは、やっぱりよしこさんでした。つまり、よしこさんのとなりは、前にいる足長君ということになりました。足長君は絶対に、何か不正をしています。ずるをしているはずだ。

足長君は、箱の中に手を入れずに言いました。

「もう、くじを引かなくても、よしこさんのとなりしか空いてないから、ぼくがよしこさんのとなりで決まりだね。」

足長君はそう言うのと、くじの箱をどんどんおりたたんで、ゴミ箱の中にすててしまいました。そして、またもや、にやっととっくんの方を向きました。その時の顔は、完全に「足長ブラック」の時の顔でした。そして自分の机をうれしそうによしこさんのとなりに移動させました。

「よしこさん、よろしくね。」

足長君がよしこさんに言ってました。よしこさんも、

「足長君ととなりの席になってうれしいな♡よろしくね♡」

と、うれしそうに返してました。うわーっ。最悪だ。まずい。よしこさんの気持ちが、どんどん足長



君にかたむいていきます。



休み時間になりました。とっくんは、しずんでいました。足長君はさっそくよしこさんと、いちゃいちゃと楽しそうに話をしていました。その時も、ちらちらと、とっくんの方を向いていました。よしこさんも、足長君とのおしゃべりが楽しそうでした。これからずっと、次の席

替えまで、2人がいちゃいちゃするのを見続けなければいけません。そう思うと、ますます気持ちはしずんでいきました。

元気のないとっくんのところに、ちん君が来ました。

「どうしたの、とっくん。元気ないねえ。」

とっくんは、ちん君にはなんでもそうだんがてきます。ミツタはなくなったけど、信頼できる人です。ですから、すべてを話しました。くじをつくって、いよいよくじを引くときに、よしこさんの場所が決まると、みんなをいったん席にもどした。そして、中のくじをかくにんしたこと。さらには、箱を落としたこと。みんなの見えないところで、なにやらあやしい動きがあったこと。とっくんがずっと足長君を観察したすべてのことを詳しく話しました。全部を話し終わると、ちん君は、

「ちょっと時間ちょうだい。」

と言って、ぼくぼくを始めました。ここは学校ですから、木魚(もくぎょ)もかねありませんが、そのかわりに、ヘルメットとえんぴつ、そしてカスタネットをつかって始めました。

「ぼくぼくぼくぼくぼくぼく、ちん。」

「とっくん、なぞはとけたよ。分かったよ。足長君は、100%いんちきをしている。」

ちん君は、足長君のしたトリックをすべて暴いてくれました。

つづく



次回予告

足長君のトリック